

進化を続けるアメリカ合衆国の医療体制

医療法人 済恵会 理事長 須藤 英仁



私は今年の5月の連休中に、アメリカ合衆国のフィラデルフィアを中心にいくつかの病院を見学する機会がありました。そこで目にしたのはアメリカの実質を重んじる医療設備と患者さんを巻き込んだ医療安全への呼びかけでした。

医療設備についての一例を挙げます。ICU（重症者治療室）にはどの部屋も大きなモニターがあり、患者さんの状態を映し出しています。当院でも設置しており、電子カルテの機能はもちろん有しているわけですが、アメリカの病院の優れている点は、主治医はパソコンさえあればオフィスや研究室など、どこ

にいても同じ画像を見られるということです。主治医は患者さんに今どのような処置がされているか、点滴の残りはどうか、患者さんの動きはどうかなど瞬時に確認することが出来ます。遠隔地から治療チームとの会話も可能で、指示を出すこともできます。本当の意味でのIT利用かもしれません。日本ではおそらく個人情報の問題があり、まだ普及していないと思いますが、重症の患者さんの管理を考えれば当然設備しなければなりません。ベッドサイドと常に双方向の会話が可能で、患者さんの状態の把握が出来ることは素晴らしいことです。



進化を続けるアメリカ合衆国の医療体制

医療法人 済恵会 理事長 須藤 英仁



もう一つは“患者さんの安全確保を最優先に考えている”というパンフレット (OUR TOP PRIORITY) です。内容は医療スタッフだけでなく患者さんとその家族と共に安全な治療を行おうとするものです。本人確認には必ず名前を名乗ってもらう、場合によっては生年月日も確認する、さらにカルテ番号を照合し本人確認を行う。ということが明記されております。もしスタッフがこの確認を行わなければ、なぜ決まった行動をとらないか質問してくれというもので、患者さんにとって人違いが起これば、起こることなど考えられないかもしれません。しかし現実にはこの問題が医療安全の最も大事なところでは、耳の遠いお年寄りなどは〇〇さんです、ね？と聞くとハイと答えてしまいうことも多いのです。また新人職員は名前と顔が一致しません。患者さんにとってはなぜ俺のことを知らないんだ？俺は何十年もこの病院にかかっているんだぞ。などと思われかと思いますが、この確認こそが安全な医療提供の一丁目一番地であると考えます。そのほかいくつかの取り組みがありますが是非当院でも実情に合わせたパンフ

レットを作成し患者さん、医療スタッフと共有していきたいと思います。今年の夏も暑くなりそうです。熱中症に注意し元気にこの夏を乗り切りましょう。



フィラデルフィア小児病院のパンフレット

脱水にご用心！

連日暑い日が続いています。脱水や熱中症が心配な季節がきましたね。今回は脱水対策についてお話します。脱水とは体から水分と電解質（塩分など）が失われた状態のことをいいます。脱水になると口渇、欠尿、倦怠感、立ちくらみ、嘔吐、痙攣、血圧低下などの症状が現れます。特に高齢者の方は体内の水分量が少ないため、普段より汗をかいたただけでも脱水状態になりやすいので注意が必要です。脱水の予防方法をいくつかご紹介します。

①室内

扇風機やエアコンを活用しましょう。夏は室内温度25～28度、湿度55～65%が適温とされています。

②外出時

帽子や日傘を使い、日陰を選んで歩きましょう。服は通気性の高いものを選びましょう。

③水分摂取

喉の渇きや汗が出ていなければ大丈夫と思いがちですが、すでに体液が減少している可能性も。一度に大量の水分をとるのではなく、喉が渇く前にこまめにと水分をとりましょう。またあわせて塩分の補給も行いましょう。ミネラル入り麦茶、スポーツドリンク、経口補水液などおすすめてです。カフェイン入りの飲み物（緑茶、コーヒー、紅茶）は利尿作用があるため、水分補給には向きません。

※スポーツドリンクや経口補水液は糖濃度や電解質濃度が高いため糖尿病、腎疾患などの持病がある方は注意が必要です。

暑さに負けずに夏を乗り越えましょう！

新たに下記医師が診療の診察を担当します。

おおた まさき

太田 昌樹：循環器内科（高崎総合医療センター）

専門：不整脈 第1・3金曜日 午前

おかむら こういち

岡邨 興一：整形外科（群馬大学）

専門：関節リウマチ

第1・3・5木曜日 15：00～18：00（受付17：30迄）

看護教育は看護部長の永遠のテーマ

看護部長 佐藤 明美

皆さんこんにちは。今年は空梅雨で、真夏のような日々が続きます。体調には十分お気を付けてください。

さて、私は当院に就職し15年が経ちました。そのうちの10年程は看護師教育に関わってきました。しかし、残念ながら「この教育方法が1番だ」というものに出会えておりません。常に試行錯誤の繰り返しです。そして、看護教育に熱心な院長からのアドバイスを受け、日々やり続けています。

先日、「ディズニーランドが実践する社員が辞めない人材教育法」という研修を受ける機会を与えていただきました。その研修で、ディズニーランドの約8割はアルバイトか契約社員であること。しかし、社員は自分の仕事の80%の力をお客様のために使っていることを知りました。これは看護師にも通じることだと思いました。今の医療システムは、書類や記録が大変多くなっています。その処理に看護師が多く時間を割いていることも現実にあります。ですから、患者様に80%の力を注ぐことができるシステムを作る必要があると思いました。

短期間で誰でも仕事が上手くできるようにする。それがディズニーの教育方針です。私は今

まで、看護師は1年かけて1人前にするという看護協会の方針に縛られていたと思いました。最低限何ができれば1人で困らないか、新人看護師の気持ちになることを忘れていました。現場ですぐに必要なことを簡潔に教えること、そのためには、現場で教える看護師をもう一度指導したいと思いました。

最後に私を始めとして師長、主任、副主任に以下の2つ課題を掲げます。

- ① 看護基準、看護手順の見直しと改善で、看護師が患者様のベッドサイドに行く時間を確保する。
- ② 新人看護師に最低限必要な知識・技術を選定し、教育計画を変更する。

看護教育に終わりはありません。常に進歩できるようにスタッフと協力して行きたいと思えます。皆様からも何かございましたら、遠慮なくご意見を頂きたいと思えますので、よろしくお願い致します。